



ゴルフこぼれ話

岡山 準也*

今年に入ってからゴルフを始めることになりました。ゴルフを始めるにあたって、まずやらなければならないのが道具をそろえることでした。一口に道具といっても、ドライバー、フェアウェイウッド、ユーティリティ、アイアン、ウェッジ、パターと色々あるうえ、メーカーも日本あり海外ありとまさに多種多様。メーカーの謳い文句で「真っ直ぐ飛ぶ」とあっても素直に信用できない性分なので、ゴルフクラブについて調べてみました。

まずパターですが、ヘッド形式は大きく分けると見た目によってアンサー型と、見た目ふっくらマレット型に分類されると思います。前者のアンサー型は、皆さんもご存じかと思いますが、パターブレード前後の肉厚が厚く、ボールをヒットする真ん中の肉厚は薄くなっていると思います。これはボールをヒットしたときに、パターブレードがブレないように、慣性モーメントを大きくするための形状をしているそうです。つまり、曲げ剛性(断面2次モーメント)を高めるためのH型鋼のように、断面図心付近の肉厚(重量)をできるだけ薄く(小さく)、断面図心より遠い部分には肉厚(重量)をできるだけ厚く(重く)しているのです。

このパターに関する構造力学の応用を初めて製品化することになったピン社では、パターに関する究極の答えという意味を込めて、アンサー(ANSWER)という名を付けることを決定しました。ところが名前を決定する前から設計を進めていたため、めでたく製品名が決まったにもかかわらず刻印スペースが足りなくなり、「ANSWER」ではなく「ANSER」と刻印することになったそうです。

こうして究極のパターが世に生み出され、最近では、慣性モーメントをより大きくするためにパターのヒット面に樹脂インサートを使用したモデルや、ブレード前後にタングステンウエイトを埋め込んだタイプなども見受けられるようになりました。

さて、前述したパターに関する究極の答えは、その他のクラブにも応用されています。アイアンに関しては、キャビティバックが開発されました。キャビティバックはいうまでもなく、慣性モーメントを大きくすることで有効打面拡大と、低重心化によってもたらされるボールのバックスピンの増大によるボールの上がりやすさが特徴といわれています。もちろん慣性モーメントが大きいという特徴により、ショット時のブレードのブレもマッスルバックより理論的に小さくなります。

ウッドクラブについても、究極の答えの応用によりメタルウッドが登場しました。中空構造のメタルヘッドの方が、従来の無垢パーシモンに比べはるかに大きな慣性モーメントをもつことは容易に想像できます。とくにドライバーに関しては、より大きな慣性モーメントによる打ち易さを追求するため、チタンを採用したいわゆるデカヘッドが現在では一般的となりました。このドライバー技術発展の裏には、材料技術から生み出された高反発係数のチタンと、製造技術から生み出された鍛造技術の開発が大きく貢献したのはいうまでもありません。

次にシャフトについてですが、カーボンシャフトが一世を風靡したかに思えますが、実はクラブヘッドに見られたような究極の答えは未だ出ていないため、スチールシャフトが開発されてから大きく進歩したとはいいい切れなようです。裏付けになるかどうかわかりませんが、世界トップのタイガー・ウッズ選手のシャフトは、14歳の時から変更したことが無いそうです。彼は現在28歳ですから、14年間も同じ銘柄のスチールシャフトをウッド、アイアンともに使い続けていることとなります。

さて、どうにかこうにか、悩みながらも道具の事に関して何となくわかってきたところで、実技の時間がやってきました。

ゴルフスイング論に関しては、何分、体型・体格の違う人間の動作を論じているので、究極の答えを探求すること自体が永遠のテーマだと思えますが、少なくとも日本の野球解説のような結果が良いから良いスイングという理論は少ないようなので、少しは力学に近い、理解しやすいスイング論に巡り会えそうな気がします。

ゴルフスイング論の究極というわけではありませんが、実際に多くの輝かしい実績を残したゴルファー達の、数あるスイング論の中にも、究極にもっとも近いと崇められているスイング論も存在するようです。

私の調べた範囲では、究極のゴルフスイングとスイング理論の持ち主の一人は球聖と呼ばれたボビー・ジョーンズでした。彼は21歳で初めて全米オープンに優勝し、28歳で引退するまで、年間グランドスラムを含む全米オープン4勝、全米アマ5勝、全英オープン3勝、全英アマ1勝と短い競技人生の中で輝かしい足跡を残しました。また、彼は生涯アマチュアとしてプレーし、若くして引退後、弁護士活動のかたわらオーガスタ・ナショナルGCを造成し、マスターズトーナメントを創設しました。

そんな彼の残したゴルフスイングに関する語録の中で、直接ゴルフスイングには関係しませんが、仕事や人生にも役立つような私自身が感銘を受けた言葉を紹介します。

「ゴルフにおいてはホールに近づくことこそ究極の目的である。」「ボールをヒットすることに神秘的な要素はひとつもない。」「ゴルフは毎回上手にプレーするには難しすぎるゲームなのである。ボールを正しくヒットするためには、つねに自分を抑制しなくてはならない。」「真に健全なスイングの第一の条件は単純さである。」「私はすでに何度も気が付いては矯正したはずの欠点と、未だに戦い続けている。」「この世には忍耐ほど報いられることの多い美徳はない。」「いつかは幸運が訪れることを期待して、努力を続け、ボールを打ち続けなさい。」

私はゴルフを始めてまだ半年程度ですが、小さな水たまりにはまったつもりが、どうも底なしの泥沼にはまったような・・・

【*日本鋼弦コンクリート(株)技術本部 設計統括部】

【2003年9月10日受付】

本「サロン」にご投稿なさりたい方、掲載された記事にご意見のある方は、(社)プレストレストコンクリート技術協会 編集委員会宛にご一報ください。

(宛先)

〒162-0821 新宿区津久戸町4番6号(第3都ビル)

